

地域の防災力を高めよう！

問 総務課 消防交通係
☎0968・86・5720

大きな災害が起きたとき、行政による支援（公助）だけでは、すべての住民の皆さんを守りきることはできません。そこで重要になるのが、行政区など身近な地域単位で「災害時に誰が・何を・どうするか」をあらかじめ決めておく「**地区防災計画**」です。

避難ルートの確認、支援が必要な方の把握など、その地域だからこそ分かる内容を盛り込むことで、いざというときに実際に機能する計画になります。

本町では、地域防災力の向上を目指し、各地区での地区防災計画の作成を推進しています。各行政区には担当の行政区担当職員を配置しており、話し合いの進め方や資料づくりなど、計画作成のサポート役を務めます。

地域の皆さんの声を計画に反映することが、実効性のある備えにつながります。地域の集まりの際に、ぜひ「もし災害が起きたら」を話し合ってみてください。皆さんの参加が、地域全体の防災力を高める第一歩になります。



ガイドブック
「作ってみよう 地区防災計画」

熊本県 作ってみよう 地区防災計画



くらしと人権 Vol.73 「現地に学ぶ」を考える

問 社会教育課 地域人権教育指導員
☎0968・86・2022

1 2026年という年

今年2026年は、人権をキーワードにして考えを巡らせると、色々な事象や事件の節目の年に当たります。例えば、熊本地震から10年、同じく人権三法（部落差別解消推進法・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法）制定・施行から10年、らい予防法の廃止（ハンセン病隔離政策の廃止）から30年、県内高校生の就職差別事件の発覚から50年、そして水俣病公式確認から70年などなど、こうして挙げていくだけでも、今なお続く人権課題が多く存在していることを改めて痛感します。そして、私たちはそれぞれについてどれだけのことを理解しているのでしょうか。

2 現地に学ぶ

6月初めの3日と4日、私は2日続けて水俣病資料館語り部の会のお二人の講話を聴く機会に恵まれました。お一人は、会の副会長川本愛一郎さん、そしてもう一人は同じく副会長の杉本肇（はじめ）さんです。川本さんの言葉を借りると「水俣病事件」

とは、いったい何だったのか、何が問題なのか、等について、分かりやすく話をされました。県内の全ての小学5年生は人権教育の一環として、水俣病資料館を訪れ、語り部さんのお話を聴く学習をしています。子どもたちが理解しやすいように工夫された語りは、大人の私たちにはさらに分かりやすいものでした。お二人の話に共通していたのは、ご自身が患者家族の子どもとしての体験を語られたことです。子どもの視点で両親や祖父母、家族のことを語られる時、愛する家族に向けられた差別の実態が怖いほど伝わってきました。しかし、そこには、第三者の支援の手がありました。差別によって分断されていく日常生活の中であって、大学生や外国の写真家による支援の力は生きる力になったことを知りました。話を聴きながら、また「資料館」を訪ねて「現地に学ぶ」ことを大事にしたいと考えていました。



文芸広場

肥後狂句	馬鹿たれが 我が家もなくす保証人 福永すみれ
馬鹿たれが 柄に似合わん高望み 池田 茜	
馬鹿たれが 親心どま見抜けんか 二瀬 桔梗	
きつかなア 跡取りおらん農作業 石原かわせみ	
きつかなア からだはやつぱ正直か 池上 沢庵	
きつかなア 針のムシロの早苗ちゃん 庄山 道草	
頑張つてみゆうか 百歳目指し気合いれ 高木せいや	
頑張つてみゆうか 薬飲みのみけんごつ 瀬上 歌子	
頑張つてみゆうか 難しゆなった肥後狂句 井上りんどう	
菊水俳句会	ご先祖に詫びごとばかり墓洗う 池田 松子
赤とんぼ夕陽の中に群れをなし 嶋田 俊一	
ふとき声苗ふるわせて蛙かな 本田美穂子	
かなしき原俳句会	涼しさや切子グラスで乾杯を 弘子
梅雨籠り七日と持たぬ文庫本 誠一	
花入れもずっと立ちけり百合の花 明	
早苗饗や村人近くなりにつけり 康子	

～和水町公式 Instagram～



和水町の「今」を発信しています！

📅 イベント情報やお知らせをいち早くチェック！

📷 広報紙に載らない写真も動画もたくさん！



町Instagram

フォローはこちらから★

和水町公民館図書室だより

問 中央公民館図書室 ☎0968・86・2022
三加和公民館図書室 ☎0968・34・3047

開館午前9時～午後10時（年末年始除く） 1回につき1人5冊まで、2週間借りることができます。

今年、戦後81年です。8月は終戦記念に関わる行事が各地で開催されます。敗戦国としてだけでなく、地上戦や原爆被爆により、兵隊さんだけでなく一般市民の多くの命が奪われたこと、これを胸に刻み、平和への祈りを新たにできる機会ではないでしょうか？

2026年は、昭和元年（1926年）から100年となります。激動と変革の昭和時代、苦難からの復興を遂げ、今の平和があることを、いま一度振り返りたいと思います。



「兵隊さんに愛されたヒョウのハチ」

祓川 学
（ハート出版）

日中戦争時、中国の山中で日本兵に保護された子ヒョウ[ハチ]の実話です。

戦火の中、常に死と隣り合わせの兵士たちにとって、かけがえのない癒しの存在であったハチ。後に日本の上野動物園に引き取られ人気者となりますが、最後は戦争激化に伴う猛獣処分の対象となり、悲しい運命をたどります。

戦後は平和のシンボルとして語り継がれると共に、高知市に建立された[ハチと兵士]の像となって、平和の尊さを訴え続けているそうです。



「明治のナインゲール 大関和物語」

田中ひかる
（中央公論社）

女性の自立が困難で、看護婦という職業の社会的地位が極めて低い時代。同志（鈴木 雅）と共に、過酷な環境の中で看護の技術と知識を習得し、近代日本の看護の礎を築いた実在の人物[大関 和]の偉業を紡いだ作品です。